

1. 概要

歩行者利便増進道路の指定を受け、歩道の一部を占有するにあたり、維持管理上の課題やイス・テーブルの適正配置を検証するために、社会実験を実施する。

○実施日時

- ・ 令和4年8月17日（水）～10月31日（月）
- ・ 期間中常設

○設置区間・場所

- ・ 七日町大通り（国道112号）のうち、az七日町南側の交差点からNANABEANS北側交差点までのL=約290mの区間で、歩道の一部



2. 滞在行動調査

滞在行動調査日時

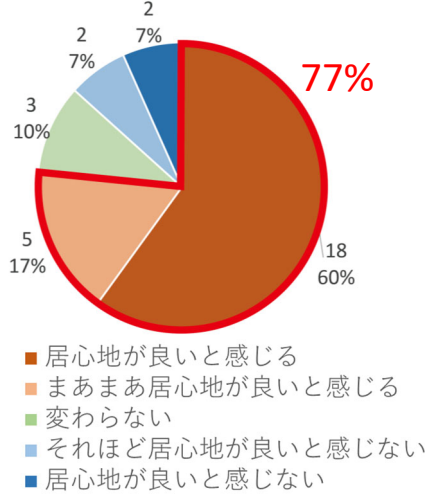
- ・ 8月27日（土）、29日（月）、9月12日（月）、18日（日）、10月14日（金）、15日（土）
- ・ 7時台～17時台（ただし、8/27、9/18は降雨のため15時台で終了）

- ・ 17時台まで調査した4日間で166人（41.5人/日）が滞在※。
 - ・ 歩道に設置したガーデンソファや沿道の公開空地に設置されたベンチに座っていた人の合計は44人（11日/日）で、そのうち歩道に設置したガーデンソファを使用していた人は14人（3.5人/日）だった。
 - ・ 8月27日（土）と9月18日（日）を含む6日間では歩道に設置したガーデンソファを使用していた人は19人（3.2人/日）だった。
 - ・ ガーデンソファの利用は、az七日町前で多かった。
 - ・ 過半数が一人での利用となり、友達や家族も一定数見られた。休日は一人が3割程度で、家族、友達、カップル、団体がそれぞれ1～2割ずつと多様な滞在者が確認できた。
 - ・ 行動別では、「何かを待っている」が3割強と最も多く、「携帯を見る」と「会話」が2割弱と続く。
 - ・ 飲食は4日間で13人、1日あたり3～4人程度見られた。
 - ・ 利用者数は多くはないが高齢者の休憩等の利用からホスピタリティが向上した。
 - ・ イベント時には、多くの人々にガーデンソファが利用された。
 - ・ 沿道店舗の協力で、9月14日～10月30日までイスにクッションを配置したことにより、雨天の日を除く利用者数の平均は平日で14.9人、休日で25人と多くの人々が利用していた。
- ※滞在者は、3分以上その場所に留まっていた人を指し、立っている人も含む人数である。

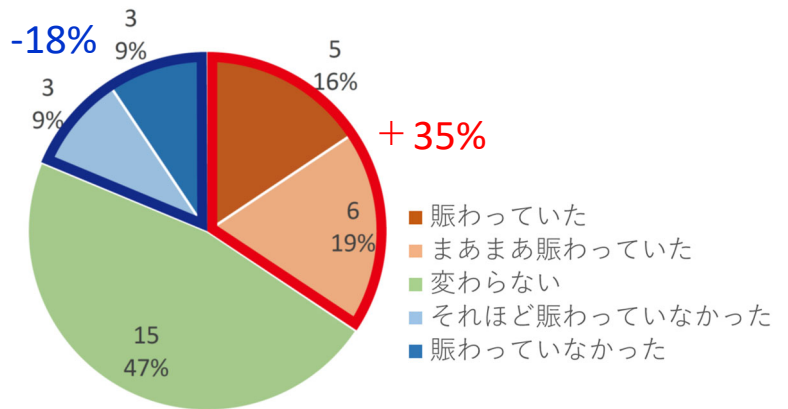


3. ビジターアンケート調査（回答者数33件）

○居心地の良さ



○普段よりにぎわっていると感じたか



○自由記述

支持
19件

- ・休憩場所として活用できた。
- ・お年寄りや妊婦さんの休憩場所としてよい。
- ・テイクアウトの食物を食べるスペースとして良い。

不支持
2件

- ・恥ずかしい。
- ・汚れている／ゴミがある。

4. 商店街からの意見

○商店街振興組合より

- ・利用状況を踏まえ、七日町大通りにおける歩道空間利活用は休憩や荷物整理等の短時間利用を促進する方向性で開始し、実施しながら七日町にとって良い歩道空間の様々な利活用を考えていきたい。

○沿道事業者より

- ・店舗前のイスやテーブルは、バス待ち利用者により利用されている。
- ・中学生等子どもたちの利用も多い。

6. 今後の課題

5. 駐輪テープ等設置による駐輪への効果

- ・斜め駐輪を促したことで、歩行空間へのはみ出しが大幅に減少した。
- ・az七日町前で最も駐輪台数が多かった。（同時駐輪最大14台）
- ・駐輪場所は駐輪テープおよびその周辺が中心だった。
- ・調査を実施した10月14日・15日では、サイクルラック本来の利用方法は見られず、その必要性は大きくはない。



項目	内容
管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミや鳥の糞や排ガスによる汚れが確認され、日々の管理徹底や清掃活動が不可欠である。街路樹下で緑陰を活用することで糞害対応が必須となり、配置箇所の検討が必要である。 ・本格運用にあたっては、台風襲来時等に備え、風速等一時撤去ルールを設定するとともに、緊急時の体制を構築する必要がある。また、その際の一時保管場所を設置する必要がある。 ・事故等への備えとして、施設賠償保険へ加入することが望ましい。 ・七日町商店街振興組合の事務局と、沿道の複数店舗、エリアマネジメント協議会との管理連携体制の構築により、店舗によるクッションの設置・撤去の協力や修景等の積極的な歩道空間利活用を促進し、エリア全体の滞在快適性を向上させることが期待される。
空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・歩車道境界に壁面等により自転車や自動車が気にならない空間づくりのための構造検討が課題。 ・強風、突風への対策重要である。壁面等は、なるべく間隙が多い格子状の柵を用いることや、高さは着座した人の目線である110cm~120cm程度を上限とすることが考えられる。
道路空間再編	<ul style="list-style-type: none"> ・ほこみち制度を活用した歩道空間の利活用をきっかけとして、モール化やシェアスペース等、様々な道路構造導入の可能性を検討する。
推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携体制を拡大し、具体的なエリアビジョンを検討する必要がある。また、そのためには官・民の間に入り調整やエリアコーディネートを行う事業者の参画が望ましい。